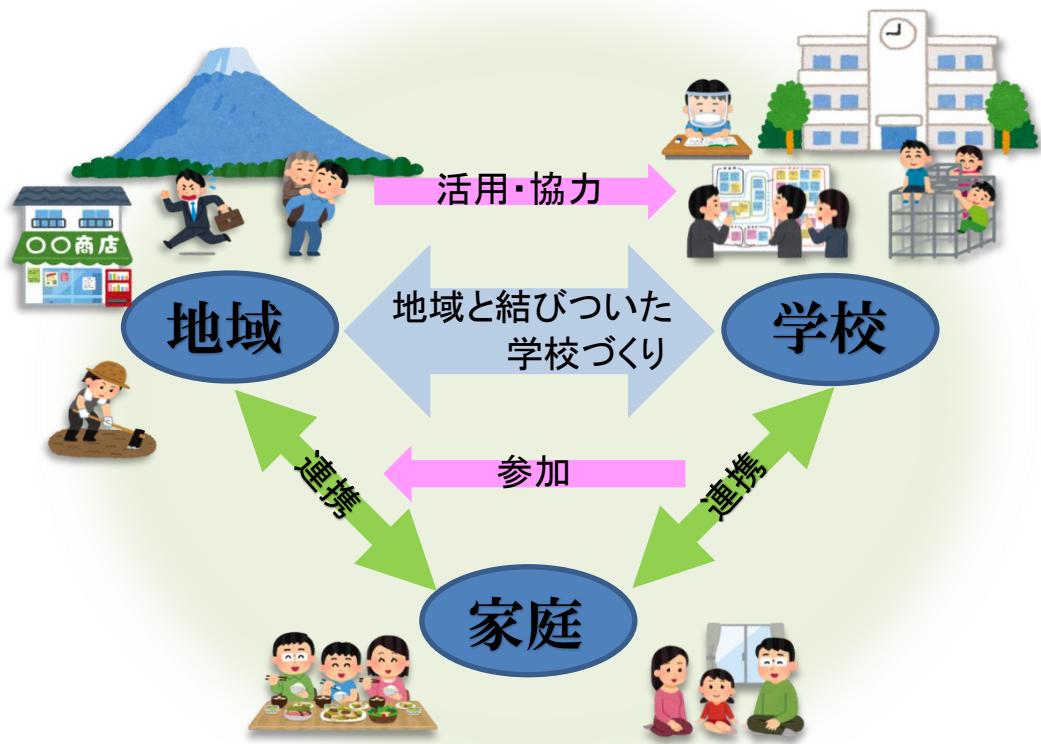


教育に関する事務の管理 及び
執行状況の点検・評価に関する報告書
(令和6年度事業対象)



令和7年12月

裾野市教育委員会

目 次

1 点検・評価の概要	2
(1) 趣旨	2
(2) 点検評価の対象	2
(3) 点検評価の方法	2
(4) 裕野市教育委員会評価委員会	3
2 裕野市教育委員会の自己点検・評価の結果等	4
(1) 教育委員会の活動	4
(2) 第2期教育振興基本計画に基づく事業	11
基本目標 I 豊かな心と健やかな体を育む教育を進める	11
基本目標 II 社会の変化に対応する確かな学力を高める	27
基本目標 III 安全安心で質の高い学校環境づくりを進める	31
基本目標 IV 一人一人の成長を支え生涯学び続ける力を支援する	34
基本目標 V 学校・地域・家庭の連携により教育力を向上させる	42

1、点検・評価の概要

(1) 趣旨

この報告書は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育に関し学識経験を有する者の知見を活用して自ら点検及び評価を行い、作成したものです。

この点検及び評価に関する報告書を議会に提出し、公表することにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくという趣旨により実施したものです。

【参考】地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

(2) 点検・評価の対象

令和6年度の教育委員会の活動及び第2期 裾野市教育振興基本計画に基づく事業について、教育委員会及び各課において自己点検・評価を行いました。

なお、教育委員会の活動については達成状況を測るものではなく、その事務を執行する必要が生じた際に、速やかに実施すべき性質であることから、評価は行わず実施内容のみを点検することとしました。

(3) 点検・評価の方法

事業計画を A 達成できた B 概ね達成できた C 達成が不十分 の3段階で達成度を評価しました。

達成度の基準

A・・・年間の計画事業はほぼ実施でき、今後においても継続した実施が見込まれる

B・・・年間の計画事業で実施できないものがあった

年間計画事業は実施できたが、課題克服には時間を要する

C・・・年間計画事業の実施が不十分

課題に対応する事業に十分着手できていない

(4) 補助金評議会評議会

点検・評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「裾野市教育委員会評議会評議会」を設置し、委員からの意見を聴取しました。

なお、令和6年度は文部科学省の「学校施設環境改善交付金」の交付を受けて、施設整備を行いました。評議会において、学校施設環境改善交付金交付要綱第8に基づく事後評価もあわせて行いました。

裾野市教育委員会評議会評議会の委員は次のとおりです。

氏名	役職等
豊福 静代	元学校長
杉山 善彦	学識経験者
志田 忠弘	市社会教育委員 (R6)

(敬称略)

2、裾野市教育委員会の自己点検・評価の結果等

(1) 教育委員会の活動

I 裾野市教育委員会 委員の構成

令和7年4月1日現在

職名	氏名	任期	在職年数
教育長	風間 忠純	平成25年12月2日 ～令和3年3月31日 令和4年2月18日 ～令和9年3月31日	10年5ヶ月
委員	桃井 昭一	平成20年10月1日 ～令和9年9月30日	16年6ヶ月
委員	眞田 平芳	平成24年10月1日 ～令和10年9月30日	12年6ヶ月
委員	庄司 伸子	平成24年10月1日 ～令和10年9月30日	12年6ヶ月
委員	神戸 寿恵	令和3年10月1日 ～令和7年9月30日	3年6ヶ月
委員	根上 泰子	令和4年10月1日 ～令和8年9月30日	2年6ヶ月

II 教育委員会会議の開催実績

開催日	議案等	
【定例】 4月 25 日	報告	裾野市立学校給食センター運営委員の委嘱及び任命について 裾野市幼稚園評議員の委嘱について 裾野市学校運営協議会委員の任命について（任期1年） 裾野市立小・中学校各種主任の任命について 裾野市スポーツ推進委員の委嘱について 裾野市地区体育委員の委嘱について 裾野市立学校体育施設等管理指導員の委嘱について 裾野市立学校体育施設等運営協議会委員の委嘱及び任命について 寺子屋コーディネーターの委嘱について
		議案 第7号 令和6年度教育委員会事業について
【定例】 5月 23 日	報告	裾野市結核対策委員の委嘱及び任命について 裾野市青少年育成推進員の委嘱について 裾野市青少年補導センター補導員の委嘱及び任命について 裾野市立鈴木図書館協議会補欠委員の委嘱について 裾野市立東西公民館運営審議会委員の委嘱及び任命について 令和6年度6月補正予算について

	議案	第 8 号 補欠委員の委嘱について 第 9 号 補欠委員の委嘱及び任命について
【定例】 6月 26 日	報告	補欠委員の委嘱及び任命について 補欠委員の委嘱及び任命について
【定例】 7月 23 日	報告	補欠委員の委嘱及び任命について
	議案	第 10 号 表彰の決定について 第 11 号 令和 6~9 年度使用中学校教科用図書の採択について
【定例】 8月 28 日	報告	補欠委員の委嘱及び評価について 令和 5 年度教育委員会各課事業報告について 補欠委員の委嘱及び任命について 令和 6 年度 9 月補正予算について
【定例】 9月 25 日	報告	補欠委員の指名について 部活動の地域移行について 令和 6 年度 9 月補正予算について
	議案	第 12 号 補欠委員の職名規則の一部改正について
【定例】 10月 23 日	報告	全国学力学習状況調査について 令和 6 年度 12 月補正予算について
【定例】 11月 27 日	報告	補欠委員の策定について（経過報告）
	議案	第 13 号 教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について 第 14 号 補欠委員の一部改正について 第 15 号 公の施設の指定管理者を指定することの議会提案について
【定例】 12月 25 日	報告	第 4 次補欠委員の実施について 第 3 期補欠委員の策定について 補欠委員の改訂版 3 及び補欠委員の改訂版（案）の策定について
【定例】 1月 29 日	報告	令和 6 年度 2 月補正予算について 令和 7 年度当初予算について
	議案	第 1 号 補欠委員の規程の一部改正について 第 2 号 補欠委員の改正する条例の議会提案について
【定例】 2月 27 日 傍聴人:2 人	議案	第 3 号 令和 7 年度補欠委員の承認について
【定例】 3月 26 日	報告	補欠委員の実施について 補欠委員の結果について 第 4 次補欠委員の結果について 第 3 期補欠委員について 補欠委員の改訂版 3 及び補欠委員の改訂版

	<p>訂版について</p> <p>第 4 号 補助金給付施設整備基本構想の策定について</p> <p>第 5 号 補助金委員会事務局内部組織規則の一部改正について</p> <p>第 6 号 すそのん寺子屋事業実施要綱の一部改正について</p> <p>第 7 号 補助金委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正について</p> <p>第 8 号 補助金施設整備基本構想推進委員会設置要綱の一部改正について</p> <p>第 9 号 補助金いじめ問題対策連絡協議会運営要綱の一部改正について</p> <p>第 10 号 補助金市立小中学校余裕教室活用計画策定委員会設置要綱の一部改正について</p> <p>第 11 号 補助金市立小・中学校の通学区域を定める規則の一部改正について</p> <p>第 12 号 補助金市立小・中学校管理規則の一部改正について</p> <p>第 13 号 補助金市立小・中学校処務規程の一部改正について</p> <p>第 14 号 補助金市立小・中学校読書活動推進計画の策定について</p> <p>第 15 号 補助金市立幼稚園管理規則の一部を改正することについて</p> <p>第 16 号 育英奨学生の選定について</p>
--	--

III 教育委員の活動実績

研修・学校・施設訪問
学校行事への参加
入学式、新任式、優秀教員表彰式、体育祭、文化祭、音楽会、幼稚園公開保育、卒業式
社会教育事業への参加
わたしの主張裾野市大会、市民芸術祭、はたちの会、英語・日本語スピーチコンテスト 等

IV 教育委員会の会議・運営

実績	<ul style="list-style-type: none"> ○ 年度当初に各課の主要施策、方針について十分協議を行った。 ○ 教育委員会の規則、規程等を制定、及び改廃することについて十分協議できている。 ○ 各種委員会委員の委嘱及び任命について、規則・要綱等に則し適正に行った。 ○ 教育予算その他議会の議決を経るべき議案について、報告を受けた上で意見を申し出た。 ○ 教職員の服務や研修方針等について、的確に指導・アドバイスを行った。 ○ ウェブサイト上で議事録を公開し、定例会の開催予定日を掲載するなど、情報公開に努めた。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ より効率的な運営に努め、かつ議論が不足しないように検討していく必要がある。 ○ 点検・評価報告書の評価委員の意見、指摘事項を踏まえ、より充実した教育委員会活動にしていきたい。

V 教育課題への対応

実績	<ul style="list-style-type: none">○ 校長との懇談の中で、学校における教育方針、課題等を確認できた。○ 定例教育委員会での報告から、問題の現状等を確認し、それに対する意見、助言を行った。○ 学力向上対策等について協議した。○ いじめ問題対策連絡協議会を開催し、いじめ対策について協議した。○ 不登校児童だ生徒対策連絡協議会を開催、不登校対策について協議した。○ 教育のあり方について協議した。
課題	<ul style="list-style-type: none">○ 学校、保護者双方の声を聞きながら、教育課題を確認する必要がある。○ 学校行事、社会教育事業に参加することで効果や課題を確認する必要がある。○ 総合教育会議等で、市長との効果的な連携をさらに図っていく。

VI 教育長の職務の遂行

実績	<ul style="list-style-type: none">○ 教育振興基本計画の進捗管理等を行い、事務局への指示を行った。○ 校長会では、各校長から提案された課題や、教育委員会の会議で出た意見、提言等について全員で検討する時間を設け直接学校運営に活かせる内容になるよう努めた。○ 校長会、教頭会ではその時の諸課題に対し適切な指示を行った。○ 学校訪問を行い、教職員への激励と学校現場での意見の聴取に努めた。○ 各課で実施されている施策に対し、その進捗状況等を確認し、効果的な事業実施に努めた。○ 教育のあり方について調査、研究し事務局への指示を行った。
課題	<ul style="list-style-type: none">○ より一層、教育現場の実情の把握に努め、今日的課題に積極的に取組んでいく必要がある。○ 教育委員会事務局、各学校等の運営状況を把握し、より良い連携ができるようにしていきたい。

評価委員の意見

項目	評価委員の意見
IV 教育委員会の会議運営	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に前年度の課題を踏まえ、各課の主要施策や方針について報告を受けるだけでなく、十分協議し共通理解を図って運営されていることは、限られた時間を効果的に生かすことにつながり評価できる。 ・4月度から3月度までの議事録を確認すると、毎回様々な報告案件が多く、また質疑応答もありたいへんな業務であると感じた。課題として、より効率的な運営に努め議論が不足しないように検討していく必要があるとあげている。日程調整や時間的な制約がある中で、議論から共通理解が生まれ課題も明確となり方向性や対策が見えてくると思われる。議論不足とならないようにという認識は重要なので、今後もその姿勢を維持し、より効率的な運営や資料の対応等も工夫していただきたい。 ・ウェブサイト上で議事録を公開し、定例会の開催予定を掲載するなど情報公開に努めたことは、市民への説明責任にもつながり評価できる。 ・ウェブサイト上で議事録を公開し、定例会の開催予定日を掲載するなど、情報公開に努めていることは評価できる。教育委員会が公開されていること、傍聴できることの周知がまだ足りていないように思える。議会にとって傍聴が有用な機能を発揮していることを考えた場合、教育委員会もより広く市民に開かれた場であることをアピールしてもよいのではないだろうか。

<p>V 教育課題 への対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・定例教育委員会で各課からの報告を聞くだけでなく、学校行事や社会教育事業へ参加し、教職員や保護者、市民から直接声を聴いていることは評価できる。今後も実態の把握に努め対策に生かしていただきたい。 ・不登校児童生徒への対応では、個人にあわせた支援として第1次予防「不登校にならないための環境づくり」、第2次予防「不登校の早期発見・早期対応」、第3次予防「不登校の個別的対応」まで、具体的な支援を実施していることは評価できる。また、不登校が14人減少したことは評価できる。日々の地道な取り組みを今後も継続していただきたい。 ・不登校状況も多様な要因を含んでいるため、学校だけでなく保護者・地域・福祉・医療等の視点を交え、その都度課題等を抽出し対策を図っていただきたい。 ・不登校対策についての協議の中で、子供にとって安全安心な居場所について共有し、地域の事業所等を知り、連携することの重要性を確認したことは評価できる。 ・教育行政を充実発展させていくためにも、「教育は人づくり」という視点から、未来の裾野を担う子供たちの育成についてのあり方を、総合教育会議における市長との効果的な連携をさらに図っていただきたい。 ・いじめ対策についての協議の中で、毎月いじめアンケートをとっていること、子供との対話を大事にする必要があることなどを確認していることは評価できる。また、いじめが発覚した場合に、被害者の支援はもちろんのこと、加害者にも寄り添って、その背景をしっかり見てスクールカウンセラーの活用なども考えるという姿勢はたいへん重要なことで、そのような対応をとっていることについては、大いに評価できる。
------------------------	--

VI 教育長の職務の遂行	<ul style="list-style-type: none"> ・第2期裾野市教育振興基本計画の進捗管理等を行い事務局への指示を行ったことは、計画の着実な取り組みが進み、次期計画策定にもつながり評価できる。 ・校長会では、各校長から提案された課題や教育委員会の会議で出た意見や提言について検討する時間を設け、学校運営に生かせる内容に努めたことは各校長の学校運営への的確な取り組みにつながり評価できる。 ・学校訪問を行い、教職員への激励と学校現場での意見聴取に努めるとともに、校長会、教頭会ではその時々の諸課題に対し適切な指示を行っていることは学校運営の大きな支えになっているものと思われ評価できる。 ・各課で実施している施策の進捗状況等の確認や助言、指示を出したことは、効果的な事業実施や見直しにつながり評価できる。今後も第2期裾野市教育振興基本計画で示された目標値を達成できるように、関係各課への指示をお願いしたい。 ・今日的な課題を押さえながら、次世代を担う子供たちのために裾野市の教育のあり方について真摯に調査や研究をし、事務局へ指示を行ったことは評価できる。 ・今日的課題として、不登校児童生徒対策、いじめ対策、情報リテラシーの充実、学校再編、図書館サービスの充実などに取り組んでいく必要があることを押さえていることは重要で、それぞれの課題に積極的に取り組んでいかれることを望む。
--------------	---

(2) 第2期教育振興基本計画に基づく事業



• 重点項目

基本目標 I 豊かな心と健やかな体を育む教育を進める

基本 施策	主な取組	具体的な取組	実績	自己点検
				担当課
1 就学前 教育の 推進	(1) 幼児教 育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児施設整備基本構想に基づき、公立幼稚園の集約による認定こども園化、を進めるとともに、幼保再編計画の見直しを実施する。 ・ 関係機関と連携し特別支援を実施する。 ・ 巡回相談事業を実施する。 ・ 職場内研修、各種研修会参加等により教諭・保育士の資質向上を図る。 ・ 幼稚園・保育園事務の ICT 化により負担を軽減し、質の高い教育・保育を実現させる。 ・ 運営に関する各種補助制度の適用を図る。 ・ 公私立の幼保及び幼保小間の交流事業を実施するとともに就学に向けての小学校との情報共有を図る。 ・ 様々な体験を通じ、地域との交流を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○社会情勢の変化に柔軟に対応する為、幼児施設整備基本構想改訂版3、幼保再編計画改訂版を策定した。 ○令和8年4月の富岡、深良地区の認定こども園開園に向け、職員により構成した検討会を9回、富岡・深良の幼保職員による統合調整会5回実施し運営方向について協議を行った。また地域や保護者の代表が参加する幼児施設整備基本構想推進委員会を1回実施し統合記念事業に関して協議を行った。 ○巡回教育相談員の配置を1名増やし2名体制とし、相談・支援体制を強化した。 ○職場内研修を実施するとともに、集合研修として施設長研修、全体研修を実施し、教育・保育の質の向上に努めた。 ○「コドモン」活用の幅を広げ、預かり保育の口座振替、園日誌、連絡帳のデジタル化などの ICT 化を進めた。 ○幼保小情報交換会を実施し就学に向けた情報交換を実施した。 ○地域の個人・団体との交流により様々な事業を実施した。 	A 幼稚園・保育園 課

	(2)子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ファミリーサポートセンターとして、児童の預かりの援助を受けたい者と当該援助を行いたい者との相互援助活動に関する連絡、調整を行う。 ・母親クラブの事業費を補助する。 ・特別保育【延長保育・一時預かり事業・休日保育、病児保育(病児対応型・病後児対応型)】を実施・補助する。 ・公立幼稚園で預かり保育を通年実施するとともに、預かり保育事業を実施している私立幼稚園に事業費を補助する。 ・小学生一時預かり事業を実施する。 ・子育て支援センター事業を実施する。 	<p><子育て支援課></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ファミリー・サポート・センター事業で 127 回のマッチングを行った。 ○母親クラブの活動へ補助金を交付した。 ○シルバー人材センターによる小学生の一時預かり事業は 7 件の利用があった。 <p><幼稚園・保育園課></p> <ul style="list-style-type: none"> ○一時預かり事業、休日保育、病児保育、病後児保育事業、子育て支援センター事業を国庫補助金を活用し実施した。 ○公立幼稚園での預かり保育を通年実施した。 	A 幼稚園・保育園 課 子育て支援課
2 豊かな心、生きる力の育成	(1)ほんものとふれあう学習	<ul style="list-style-type: none"> ・普段なかなかふれることができない文化芸術やアスリート等の講話等を計画的に実施する。 ・子どもたちの心をゆさぶり、自らなりたい自分を見つめなおすきっかけとなるように各校で工夫して取り組む。 ・平和教育基金を活用させていただくので、平和教育を推進の一助となるような取組を行う。(R 6 年度は須山中) 	<ul style="list-style-type: none"> ○各校で演劇、音楽鑑賞会を開催したり、芸術体験やスポーツ講座、和文化体験を実施したりした。 ○購入した平和に関する文献を用いて、関連する教科や道徳等において平和の大切さについて学んだ。 	A 学校教育課
	(2)地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクール推進委員会を開催し、コミュニティ・スクールを進める上での課題や実践を共有し、学校と地域が連携・協働した学校づくりについて協議する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○推進委員会を年 2 回開催し、各校の取組状況の共有と、市として目指す姿について協議した。 	A 学校教育課
	(3)読書活動	<ul style="list-style-type: none"> ・鈴木図書館と連携した「学級文庫パック」の利用拡大を推進する。 ・各小中学校図書室の図書館運営に関する研修会を開催する。 ・鈴木図書館と連携し、読んだ本の記録を積み上げる仕組みを構築する。 	<p><学校教育課></p> <ul style="list-style-type: none"> ○本好きな児童生徒を育てるため、新刊図書等の購入や整理を行った。 ○読み聞かせや図書館ボランティアの活動を充実させた。 <p><鈴木図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「鈴木図書館パック」を 3 校が利用 	A

		し、計 244 冊の団体貸出が行われた。 ○鈴木図書館で発行している読書通帳を学校図書室でも活用できるよう配布した。	学校教育課 鈴木図書館
	(4)道徳教育	・豊かな体験活動を生かし、地域の活躍した人を紹介するなど特色のある道徳教育を実施する。 ・道徳教育について学校だより等による家庭への積極的な情報発信をする。	○特色ある道徳教育を行うことで、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考えるなど、主体的に自己の生き方について考えを深める授業の工夫を行った。 学校教育課
	(5)キャリア教育	・地域人材や地元企業の協力によるキャリア教育を推進する。	○地元企業の協力により、職業講話や職業体験を行った。 学校教育課
3 健やかな成長の推進	(1)体力向上	・小学校においては、静岡県体力アップコンテストに積極的に取り組む。 ・中学校においては、部活動の在り方を検討しながら、充実を図る。	○各校で体力アップコンテストに取り組んだ。（表彰：深良小） ○部活動の地域展開に向けながらそれぞれの活動に励んだり、部活動指導員や外部指導者を活用したりしながら部活動の充実を図った。 A 学校教育課
	(2)生活習慣	・早寝、早起き、朝ごはん等の基本的生活習慣が身につくように指導、支援する。 ・家庭状況を踏まえ、厳しい状況下にある場合には、学校と各機関とで連携を図る。	○毎日の基本的な生活習慣確立のための指導や家庭への協力依頼を行った。 A 学校教育課
	(3)給食・食育	・衛生管理を徹底し安全安心な給食を実施する。 ・食に関する指導の全体計画に基づいた食育活動を実施する。 ・給食に地域の産物を活用し地場産物への理解を深める機会を設ける。 ・食器入替事業を実施する。 ・給食施設、設備の維持補修を行う。 ・自校式の給食室を含めた、新給食センター設置の計画を策定する。	○衛生管理・安全管理の研修を行い、作業の見直しを行うとともに職員の意識向上に努めた。 ○給食の時間や授業などで食育活動を実施した。 ○地域への理解と関心を高めるため、ふるさと給食の日やふじっぴー給食を設定して地域の産物を活用する機会を設けた。 ○食器入替事業を実施した。 ○安全で衛生的な作業が行えるよう給食施設、設備の維持補修を行った。 ○学校給食施設整備基本構想を策定した。 A 給食センター

	(4)健康	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒の健康診断を実施する。 健康や体に関する知識を深めるために、薬学講座を実施したり、ゲーム等の依存症に対する研修を実施したりする。 家庭と連携した健康指導を行い、状況によっては外部機関との連携を図る。 	<p>○健康診断を実施し、自分の健康を見つめ改善することで、健康増進に努めた。また、薬学講座等を実施し知識を深めた。</p> <p>○熱中症対策や感染症対策を実施し、自身の健康に関心を持つ児童生徒が増加した。</p>	A 学校教育課
4 一人一人を大切にする教育の推進	(1)不登校児童生徒・いじめ対策	<ul style="list-style-type: none"> いじめの定義について改めて周知し、だれにでも起こりうるものとして、学校での積極的な認知といじめられた子供たちに寄り添った支援体制の強化を図る。子供たちが安心して楽しく通える魅力ある学校づくり・学校風土の醸成を図る。 新規不登校を出さないために、各学校で「不登校未然防止のためのPDCAサイクル」（魅力ある学校づくり）に取り組むとともに、組織的な対応が図られるように、教育支援センター機能の充実、SSWの活用を進める。 不登校児童生徒に対する支援体制の強化を図り、ネットワーク会議や「不登校等支援部会」等で事例検討や具体的な支援の検討をしていく。 学級に入れない児童生徒が入室し別室と呼んでいた部屋をスペシャルサポートルーム（SSR）とし、その整備を進めていく。 市相談員や「すそのんほっと相談」を活用するとともに、SOSの出し方教育を継続的に実施し、悩みを抱える子どもたちが発信できる体制を整える。 	<p>○いじめ防止対策推進法に則り、いじめの定義や積極的な認知について研修する機会を多く持ち、各校のいじめ防止基本方針の見直しを行った。</p> <p>○未然防止策を含めた不登校児童生徒への支援について協議し、学校だけでなく関係機関との連携の中でできる支援を模索した。不登校になっている要因が多岐に渡っているため、SSWの役割が高まっている。大規模校では、ケース会議の増加や関係機関との連絡調整等により、職員の業務量が大幅に増えている。</p> <p>○健康推進課と共同して、全ての小学5年生と中学1年生に対してSOSの出し方教育を実施した。</p> <p>○「すそのんほっと相談」をオンライン上に開設し、いつでも相談ができる体制づくりを行い、効果が出ている。</p>	A 学校教育課

	(2)園・学校間連携	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・保・こども園と小学校で園児と児童の交流を推進する。 ・幼・保・こども園と小学校間で、教育活動への相互理解の促進を図る。 	<p><幼稚園・保育園課></p> <p>○授業参観等を通じ交流を図った。</p> <p><学校教育課></p> <p>○各校の実情に合わせて、可能な範囲で交流を行った</p> <p>○公開可能な機会について情報提供し、互いの活動について知る機会を設けた。</p> <p>○連携研修会を開催し、幼・保・こ・小の円滑な接続を実現するための手立てについて協議した。</p>	B・A 幼稚園・保育園 課学校教育課
	(3)特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーター、通級指導担当者との連携を深め、通常学級における支援や就学相談に係る具体的な取組を教員全体に広げる。 	<p>○特別支援コーディネーター研修を実施（4月）し、役割を確認した。</p> <p>○特別支援教育 小・中の連携研修会を実施（5月、1月）した。</p> <p>○市教職経験 2・3 年目教員研修会で特別支援教育に関する研修を実施（8月）した。</p>	A 学校教育課
	(4)経済的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な理由により就学な困難と認められる児童生徒の保護者に対して、学用品費や給食費などについて援助する。 ・新入学用品費は入学前支給に努める。 ・就学援助・就学奨励事業を継続し、制度を周知する。 ・学ぶ意欲を持った子どもたちを支援するための育英奨学生事業を継続し、制度を周知する。 	<p><教育総務課></p> <p>○経済的な理由等により、就学が困難と認められる児童・生徒の保護者に対して、学用品費や給食費などを就学援助費として支給した。</p> <p>○新小学1年生・新中学1年生の新入学児童用品費を前倒しして入学前に支給した。</p> <p>○保護者に就学援助制度についての案内文書を送付した。また、裾野市HPに制度について掲載した。</p> <p><学校教育課></p> <p>○高校や大学等に就学し、品行が正しく学術に優れた者で、学費の支弁が困難な者に対し、育英奨学生として大学生5名、高校生1名を新規に採用した。</p>	A 教育総務課 学校教育課

5 特色のある教育の推進	(1)「すその」 を知る学習 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用した学習活動や市内企業等と連携した学習活動など、子供たちが主体的に地域の魅力を学ぶ取り組みを推進する。 ・市の魅力などを子供たちに伝えるための郷土読みの活用と、編集の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○企業や官公庁と連携したり、地域住民の協力を得たりして、地域学習に取り組んだ。 ○地域の実情に合わせて市内の白地図、鳥瞰図を改定し、地域学習に生かすことができるようとした。 	A 学校教育課
	(2) SDG's 教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・人権に関する理解を深め、自他ともに大切にする心情を育む取り組みを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○学校経営の中でSDGsを視点に、教育活動を行っている。 (例:各教科、総合的な学習の時間、特別活動) 	A 学校教育課
	(3)外国語 教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・生きた外国語活動を通して、コミュニケーション能力を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○プロポーザルを実施してよりよい派遣業者を選定するとともに、指導力のあるALTを長期的に確保するために複数年契約を結び、派遣を受けている。 	A 学校教育課
	(4)防災・安 全教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震や洪水、富士山噴火等を想定した防災教育、避難訓練を実施するとともに、地域と連携した防災の在り方についても検討する。 ・R6富岡地区小・中学校で実施する県教委指定研究「学校安全総合支援事業」の取組をもとに、防災教育の推進と防災体制の検討を行う。 ・子どもたちの安全確保を前提とした通学路点検を実施し、必要に応じて地域、警察、行政機関と連携して改善に努める。 ・不審者情報については、静岡県防犯アプリ「どこでもポリス」の登録を推奨するとともに、学校からまもメール等を通じて注意喚起を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○富士山火山噴火を切り口として、災害への備えについて考える学習を行ったり、教職員に対する研修を実施したりするなど、学校安全総合支援事業に取り組むことを通して防災意識の向上を図った。 ○警察の「エスピーチ君メール」を周知し、「まもメール」等を通じて注意喚起を促した。 	A 学校教育課
	(5)環境教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科や総合的な学習の時間等の中で、栽培活動や調査活動に取り組み、環境への关心や理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各教科の学習にあわせて栽培活動に取り組んだり、SDGsをテーマに探究的な学習を行ったりして、環境に対する关心を高めた。 	A 学校教育課

課題等と今後の取り組みの方向性

<給食センター>

○給食施設はどこも老朽化しており、設備も耐用年数を超えたものを使用している。学校給食施設整備基本構想を策定したため現在の給食施設や設備の更新は最小限とするが、故障や破損がみられた場合は安全安心な給食提供に支障がないよう速やかに対応する。

<学校教育課>

○不登校児童生徒が過去最多の昨年度よりも14人減少した。文部科学省から示された「COCOLO プラン」を基に、「すそのCOCOLO プラン」を作成し、継続して、未然防止、早期発見・早期対応、個別の支援の観点から、対策に取り組んでいる。

活動指標

基本 施策		内 容	計画*策定時	R5	R6	目標 (R8)
1	①	幼稚園・保育園の待機児童数	3人	0人	0人	0人
	②	認定こども園の開設数	0園	2園	3園	3園
2	①	将来の夢や目標を持っている児童・生徒の割合	小学生 83% 中学生 73%	小学生 83.2% 中学生 65.3%	小学生 86.7% 中学生 64.9%	小学生 90% 中学生 80%
	②	人や地域と関わりながら、住みやすい社会を作るために、自ら行動しようとしている児童・生徒の割合	小学生 57% 中学生 47%	小学生 79.8% 中学生 62.4%	小学生 91.1% 中学生 76.3%	小学生 75% 中学生 80%
3	①	望ましい生活習慣を子どもが身に付けていると答える保護者の割合	72.4%	89.7%	-%	85%
	②	自分の健康や体力に関心をもち、疾病の治療や体力の増進に進んで取り組む児童生徒の割合	小学生 79.5% 中学生 76.2%	小学生 88.5% 中学生 92.7%	小学生 -% 中学生 -%	小学生 90% 中学生 90%
4	①	学校が楽しいと感じる児童生徒の割合	86.3%	小学生 87.2% 中学生 83.2%	小学生 93.8% 中学生 73.7%	95%
	②	先生はあなたのことを認めてくれていると思うと感じる児童生徒の割合	88.8%	小学生 91.7% 中学生 87.9%	小学生 93.1% 中学生 88.7%	95%
	③	私立公立園を含めた小学校との交流行事の回数	2.5回/年	1.1回/年	1.6回/年	4回/年
5	①	地域、企業等が参加・連携した授業数	107回	248回	250回	200回
	②	ALTとの授業や関わりが楽しいと感じる割合	85.0%	90.5%	94.0%	95.0%

1、4③ 幼稚園・保育園課／2、3、4①②、5 学校教育課

評価委員の意見

基本施策	評価委員の意見
1 就学前教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 令和8年4月の富岡、深良地区の認定こども園開園に向けて、職員による検討会9回、富岡、深良の幼保職員による統合調整会を5回実施し、運営方向について協議を行ったことは、認定こども園運営方針、保育内容の共通理解や教諭・保育士の資質向上にもつながり評価できる。また、地域や保護者の代表が参加する児童施設整備基本構想推進委員会を1回実施し、統合記念事業に関する協議を行ったことは、地域や保護者の理解を得る貴重な機会となり評価できる。 社会情勢の変化に柔軟に対応するため、児童施設整備基本構想改訂版3、幼保再編計画改訂版を策定したことは、幼保の教育環境づくりの基盤となり評価できる。就学前人口の減少が顕著なことから、「民間参入の推進を図る」ことから「民間活力の活用」に変更し、既存施設の改修やこども園化などを支援する方針への変更を行ったことは、現状に即した対応として評価できる。 幼保小情報交換会を実施し、幼稚園、保育園の園児の様子を小学校教員へ伝えるほか、特別支援の情報共有を行っていること、3学期には小学校教員が園を訪問し、子供たちの様子を確認するほか、小学校入学後には幼稚園、保育園職員が小学校を訪問し、子供たちの授業の様子を確認して意見交換を行っていることなど、たいへん有用な取り組みであり、大いに評価したい。 インクルーシブ教育構築のために、巡回教育相談員の配置を1名増やし2名体制とし、相談、支援体制を強化したことは、子どもや保護者に対して手厚い支援体制となり評価できる。 個々の保育の資質向上に向け、職場研修を実施するとともに、集合研修として施設長研修や全体研修を実施し、人権をテーマにした内容の講演や事例演習を研修したことは評価できる。今後も継続して、園児を中心に据えた資質向上への研修を推進していただきたい。 幼保とともに各園にタブレット端末が配置され、「コドモン」の活用の幅を広げるなど、様々な業務のデジタル化が進められた。また入園申請受付の電子化も開始された。ICT化によって業務の効率化、生産性の向上が図られ、職員が子供たちや保護者と接する時間の確保といったサービスの質の向上につながり評価できる。

- ・公立の幼保及び幼保小間の交流事業の実施や就学に向けての小学校との情報交換は、幼保小の円滑な連携となり、「小1プロブレム」の解消にもつながり評価できる。今後も交流事業や情報交換を続けていただきたい。
- ・幼稚園・保育園の待機児童数が3年継続して0人ということは、少子化の状況とは言え、評価できる。
- ・一時預かり事業、休日保育、病児保育、病後児保育事業、子育て支援センター事業などのほか、公立幼稚園での預かり保育を通年実施したことなど、子育て支援のさまざまな取り組みが実施されていることは、働く保護者にとって心強い支援でありたいへん評価できる。
- ・ファミリーサポートセンター事業でのマッチングが127回で、前年度の22回から大幅に増えているが、提供会員の増加や、さまざまな場面でのPRによって増加したとのことで、取り組みへの積極的な対応を評価したい。また、シルバー人材センターによる小学生の一時預かり事業が4件から7件に増えているのも、子育て世代の多様なニーズへの対応として評価できる。居場所づくりとともにそこでの質の向上も大切なので、連携を密に図っていただきたい。
- ・子ども家庭センターが設置され、妊産婦、子育て家庭、子供を対象に、切れ目がない相談支援を相談者に寄り添いながら実施していることは、評価できる。

2 豊かな心、生きる力の育成	<ul style="list-style-type: none"> 普段なかなかふれことができない、演劇鑑賞会、音楽鑑賞会、芸術体験や和文化体験、スポーツ講座、キャリア教育体験等、「ほんものとふれあう学習」を各小・中学校が児童生徒の実態から選択して実施したことは、将来への夢を持てるキャリア教育にもつながり評価でき、今後も継続して取り組んでいただきたい。 平和教育基金を活用し、購入した平和に関する文献を用いて、関連する教科や道徳等で学習したことは、平和への意識を高めたり深めたりでき評価できる。今後も継続して取り組んでいただきたい。 コミュニティスクール推進委員会を年2回開催し、各校の取り組み状況の共有と、市として目指す姿について協議しているということであるが、コミュニティスクールについての住民の理解がごく一部の地域住民に留まっているように思われる。学校運営協議会や地域学校協働活動への参加者にとっては当たり前のことでも、より多くの地域住民に認知してもらえるような取り組みも必要ではないだろうか。 幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子供たちの学びの成長を支える地域学校協働活動として、市立幼稚園、小中学校にスクールコーディネーターを配置し、学校支援ボランティア活動を推進している。各園各学校のニーズに応じて、スクールコーディネーターは地域・保護者の人材への協力依頼や調整を行い、活動件数が年間1,520件あったことは評価できる。 「鈴木図書館パック」を3校が利用し、計244冊の団体貸出が行われたとのことだが、昨年度の4校631冊から見ると減少している。しかし「鈴木図書館パック」というアイデアは良いので、利用者が増えるような働きかけを続けてほしい。 本好きな児童生徒を育てるために、新刊図書等の購入や整理を行ったことや、読み聞かせや図書館ボランティアの活動を充実させたことなどは評価できる。子供も大人も読書離れが言われているが、子供には読書に親しむための施策を継続してほしい。 鈴木図書館で発行している読書通帳を学校図書室でも記録できるように調整し、読んだ本の記録が積みあがる仕組みにしたことは、子供たちの励みになり評価できる。 地元企業等の協力により職業講話を聞いたり、職業体験をしたりとキャリア教育を推進している。授業数も増えており、引き続き、取り組みを継続していただきたい。また、継続するためには授業の成果について、協力企業にフィードバックできるような機会を設けてはどうか。
----------------	---

- | | |
|--|--|
| | <ul style="list-style-type: none">・特色ある道徳教育として、須山中では日頃から地域人材を生かした教育活動（フィールドワーク、茶摘み、防災等）を行っており、その教育活動の前後に、「郷土の伝統と文化の尊重」、「郷土を愛する態度や自然愛護」についての道徳の授業を実施しているとのことで、このような地域社会との関わりの中から教育の実践を行っていることは大いに評価できる。・活動指標の、人や地域と関わりながら、住みやすい社会を作るために、自ら行動しようとしている児童・生徒の割合が、小学生・中学生ともに増加していることは良い傾向であり、中学生がもう少し増えってくれることを願う。 |
|--|--|

	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の地域展開に向けた実証事業を2つの部活動で実践したり、部活動指導員や外部指導員を活用したりしながら部活動の充実を図っていることは評価できる。外部指導者には、教育的な視点にたち部活の意義や指導のあり方について研修等で共通理解を図っていただきたい。また、部活動コーディネーターを1名配置し、部活動の地域展開に向けてその運営主体としてN P O法人を立ち上げて推進していることに期待したい。 ・部活動の地域展開事業の中で、送迎、費用等様々な問題が出てきているかと思う。生徒の健全な育成につながるよう、地域と連携し、持続的な仕組みを構築していくいただきたい。 ・部活動の地域展開に向けながらそれぞれの活動に励んだり、部活動指導員や外部指導者を活用したりしながら部活動の充実を図ったとのことであるが、部活動の地域展開に関しては、生徒たちの希望や思いを優先して進めてほしい。 <ul style="list-style-type: none"> ・望ましい生活習慣の定着を図るために、学校と家庭が連携して、基本的生活習慣を身に付ける取り組みをし、食育指導も行っていることは評価できる。継続して家庭との連携のあり方の工夫・改善を推進していただきたい。 ・食育に関して、各校の栄養教諭が年間計画を立てて食に関する指導を実施しているが、子供だけでなく教職員への働きかけも行っているとのことで、食育の充実を目指す上でたいへん良い取り組みだと思う。 <ul style="list-style-type: none"> ・子供の健やかな成長のために、経済的・対人的等の家庭状況が厳しい状況下にある場合には、学校と各関係機関の連携が必要である。積極的に連携を推進していただきたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒が興味を持ちやすい「ふるさと給食の日」を年10回設け、「ふじっぴー給食」を設定し、地域の産物を活用するとともに指導資料を作成し児童生徒の啓発に努めたことは、地場産物への理解や地域に愛情を持つことにもつながり評価できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・前年度実施した学校給食施設再編整備のサウンディング調査を参考にして、学校給食施設整備基本構想を作成したことは、段階を経た着実な取り組みであり評価できる。 ・学校給食施設整備基本構想が策定され、新給食センターの稼働予定が令和13年夏休み明けと示された。学校再編計画により既存市有地を活用していくため、時間がかかるのはやむを得ないが、給食センターが1993年度、自校式で最も古い施設は1972年度建築である。調理機器・設備等の更新・修繕、また、現場の努力・工夫により安全・安心な給食の提供がなんとか維持できているというのが現状ではないだろうか。給食センターでは近時回転式食器・トレー消毒保管装置の不具合も頻発していると耳にした。子供たちが楽しみにしている日々の給食
--	---

3 健やかな成長の推進

が滞ることのないよう調理機器・設備類の点検・維持業務は引き続き入念にお願いしたい。

- ・学校給食施設整備基本構想によって、新たな給食センターを整備する方針が示されている（西小学校のみ数年間自校式）。施設の老朽化、児童・生徒数の減少による規模の縮小、働き手の確保などを鑑みると致し方ないことだとは思うが、パブリックコメントでも「自校式」への要望が多かったことを考慮のうえ、安全で美味しい給食の提供に努めてほしい。
- ・健康や体に関する知識を深めるために、健康診断や薬学講座を実施したことは評価できる。ゲーム等の依存症に対する研修等もしていただきたい。
- ・熱中症対策や感染症対策を実施し、自身の健康に関心を持つ児童生徒が増加したことは大いに評価できる。現在の社会環境にあってはたいへん重要なことなので、今後とも継続し、強化してほしい。
- ・小学校における災害給付の件数に増加がみられる。事案の発生原因を分析し、同様の事象が発生しないよう指導、助言し、注意喚起を願いたい。

4 一人一人を大切にする教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちが安心して楽しく通える魅力ある学校づくり・学校風土の醸成を図るために、いじめ防止対策推進法に則り、いじめの定義や積極的な認知について研修する機会を多く持ち、各校のいじめ防止基本方針の見直しを法的根拠も押さえながら行ったことは、早期いじめ発見や対処法について学ぶことができ、さらに一人一人の子供たちの見取り方や寄り添い方を学ぶ機会ともなり評価できる。こうした取り組みの中で、いじめの件数が121件減少し効果が出ていることは大いに評価できる。 ・学校だけでなく関係機関やSC、SSWとの連携の中で未然防止策を含めた不登校児童生徒への支援について協議し、対応を模索してきた結果、不登校児童生徒数が減少したことは評価できる。しかしながら、大規模校ではケース会議の増加や関係機関との連絡調整により、職員の業務量が大幅に増えている。職員の負担軽減に資する対策を講じていただきたい。 ・令和6年度は教室に入ることができずに別室で過ごす生徒が多かった東中、西中、富岡中の3校にスペシャルサポートルームを設置し、専属の支援員を配置することで、環境の整備と見通しを持った支援をすることができるようになったことは、それまでの対応に比べて格段に良くなっていると思われる。今後の取り組みに期待したい。 ・健康推進課と共同して、全校の小学5年生と中学1年生にSOSの出し方教育を実施し、悩みを抱える子供が発信できる体制を継続して実施していることは評価できる。小学1年生から中学3年生の全学年で、成長過程を踏まえたSOSの出し方教育を実施していただきたい。 ・「すそのんほっと相談」をオンライン上に開設したことは、悩みを抱える児童生徒の早期発見・早期対応につながる。さらに、いつでも相談できる体制となっており、効果が出ていることは大変喜ばしく評価できる。今後に大いに期待したい。 ・園・学校間連携に関しては、授業参観等を通じ、各校の実情に合わせて可能な範囲で交流を行ったこと、連携研修会を開催し、幼・保・こ・小の円滑な接続を実現するための手立てについて協議したことなどは評価できる。
-------------------	--

	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級担任や特別支援教育コーディネーター、通級指導担当者との連携を深め、通常学級における支援や就学相談に係る具体的な取り組みを教員全体に広げるために各種の研修会を実施したことは評価できる。個別最適な学びと協働的な学びの一体化、交流教育、共同学習を今後もさらに推進していただきたい。 ・特別支援学級が令和2年には18学級だったが、令和6年には24学級となっている。多様化する子供たちの個々の状態に対応できるよう環境整備と担当職員の研修に努めていただきたい。 ・通常学級においても年々支援が必要と思われる子供たちが増えていると聞く。職員への特別支援教育を通常学級担任を含め、広く定期的、段階的な研修として継続実施していただきたい。 ・特別支援教育に関しては、特別支援コーディネーター研修の実施、特別支援教育の小・中の連携研修会の実施、市教職経験2・3年目教員研修会で特別支援教育に関する研修の実施など、継続した研修体制を維持していることは評価できる。 ・就学援助・就学奨励事業を継続し、経済的な理由により就学が困難と認められる児童生徒の保護者に対して、学用品費や給食費などの支援を実施し、新小学1年生、新中学1年生の新入学児童生徒用品費を前倒しして入学前に支給したことや保護者に就学援助制度についての案内文を送付したこと、HPに制度について掲載したことは評価できる。今後ともよりきめ細かい支援をお願いしたい。 ・育英奨学金事業を継続し、周知していることは評価できるが、貸与型から給付型へという方向性を目指してほしい。令和6年度でも、56人が1人あたりにして192,500円（総計10,778,700円）を返還している状況で、かなり大きな負担になっているのではないかと思われる。 ・一人ひとりのよさを生かし育むために、個に寄り添い個に応じた教育を推進するためには指導者の増員が望まれる。こうした状況の中で、学校運営協議会やキャリア教育に協力的な地域人材や企業等を活用した取り組みは評価できる。 ・活動指標の「学校が楽しいと感じる児童生徒の割合」は、中学生の減少傾向が気になる。あくまでも目安ではあるが、教育現場での適切な対応に期待したい。
--	---

<p>5 特色のある教育の推進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・裾野を知る学習で、子供が主体的に地域の魅力を学び取るために、地域人材を活用した学習活動や市内の企業や官公庁と連携した学習活動に取り組み、子供が学習したことまとめたり紹介したりする活動は地域をよく知り、人との接し方も学ぶことができる機会となり評価できる。よりよい裾野を知る学習に導くために、活動・指導の広がりを成長段階に応じて明確に押さえながら、今後も継続して推進していただきたい。 ・地域の実情に合わせて市内の白地図、鳥瞰図を改訂したことは、児童生徒が地域学習で最新の資料を活用して学びを深めることができ評価できる。 ・裾野市の成り立ち、魅力を子供たちに伝えるため、郷土読本を活用するとともに、定期的な改訂に引き続き務めていただきたい。 ・子供たちにとってより良い外国語活動となるよう、指導力があるALTを長期的に確保するために複数年契約を結んだことは、授業の質の向上にもつながった。プロポーザルで示された企画・提案が着実に実行されるよう、派遣業者、ALTと連携し進めていただきたい。 ・富士山火山噴火を切り口として、備えについて考える学習を行ったり、教職員に対する研修を実施したりし、学校安全総合支援事業に取り組むことを通して防災意識の向上を図ったことは評価できる。また、各種の災害を想定しながら防災教育、避難訓練を実施する中で、地域と連携した防災についても検討し、学校の実情に応じて関係機関と連携して防災や安全について日ごろから学習していることは、地域とともにある学校づくりにつながり評価できる。 ・安全教育として、不審者情報については、静岡県防犯アプリ「どこでもポリス」の登録を推奨するとともに、警察の「エスピーくんメール」を周知し、「まもメール」等を通じて注意喚起を促したことは、子供たちの安全確保につながり評価できる。 ・各教科の学習では発達段階を押さえて栽培活動に取り組んだり、SDGsをテーマに探究的な学習を行ったりして、児童生徒の環境に対する関心を高めたことは評価できる。 ・大人の目線、子供の目線、それぞれから見た通学路の点検を引き続き実施していただきたい。特に大人の目線では見えにくい死角を発見する工夫をしていただきたい。
---------------------	---

基本目標 II 社会の変化に対応する確かな学力を高める

基本 施策	主な取組	具体的な取組	実績	自己点検
				担当課
1 学校の教育力の向上	(1)学びの持続	・ 良好的な学習環境を維持するため、講師や支援員の効果的な配置をする。	○非常勤講師を小学校 9 名・中学校 7 名、支援員を小学校 17 名、特別支援員を小学校 9 名配置し、個に応じた支援を充実させることができた。	A 学校教育課
	(2)学びの支援	・ 外部指導者や部活動指導員に適している人材を見つけ、より多くの外部指導者や部活動指導員の活躍を推進する。	○部活動指導員 6 名、外部指導者 2 1 名を配置し、資質向上のため研修会を行い、部活動の充実を図った。	A 学校教育課
	(3)教員の指導力向上	・ 教育支援拠点である「学びの森」の指導員が、若手教員の授業力向上や学校教育力の向上のための支援をする。 ・ 各種研修会を企画・運営し、それぞれの教員に必要となる力量アップを推進する。	○教職経験 2~3 年目教員と県・市講師を中心に、個別指導形式で授業に関する研修をのべ 131 回行った。 ○初任者研修会、2・3 年目教員研修会、市講師・支援員研修会を実施した。 ○現場のニーズに合わせ、学習評価に関する研修会や学年主任の職務に関する研修会を実施した。	A 学校教育課
2 ICT 教育の推進	(1)ICT 利活用	・ 一人一台整備された端末の授業の中での効果的な活用について研修し、市内全体で情報共有をしていく。 ・ 児童生徒が ICT 端末を活用して基本スキルを学び、発達の段階に応じた情報活用能力の育成を図る。(ICT 支援員等を効果的に活用する。)	○GIGA スクール推進委員会を実施した。(年 2 回) ○ICT 支援訪問回数 (小学校 216 回・中学校 120 回)	A 学校教育課
	(2)情報モラル教育	・ すべての子供たちに対して情報モラル教育(デジタルシチズンシップ教育)をし、子供たちの「情報リスクに対応する力」の育成を図る。 ・ 生徒指導部から SNS 等によるいじめ、トラブルの未然防止策を発信する。	○情報モラル教育(デジタルシチズンシップ教育)で活用可能な Web 教材や Web ページを市内で情報共有し、活用を図った。	A 学校教育課

課題等と今後の取り組みの方向性

<学校教育課>

○外部指導者を増やし、部活動の充実を図る。

○ICT 端末操作の基礎スキルが教員・児童生徒共に身についてきたため、ICT 支援員による支援をヘルプデスクによる支援に移行する。

活動指標

基本 施策		内 容	計画策定時	R5	R6	目標 (R8)
1	①	授業がわかると答える児童生徒の割合	80.8%	88.0%	83.3%	90%
	②	児童生徒がこれから社会を生きていくための基礎となる確かな学力や資質を身に付けるために、より質の高い授業が行われていると思う保護者の割合	76.7%	87.3%	88.5%	85%
2	①	学校以外の場所で学校の勉強のためにインターネット上のサイトを毎日・ほぼ毎日以上見た割合	12.0%	88.9%	73.3%	30%
	②	学校で他の生徒と共同作業をするために、週1～2回以上コンピュータを使う割合	0.7%	81.5%	78.9%	40%
	③	他校あるいは企業や地域と連携して ICT 機器を利用した授業数	16 回	165 回	126 回	40 回

1、2 学校教育課

評価委員の意見

基本施策	評価委員の意見
1 学校の教育力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・非常勤講師を小学校9名、中学校7名、支援員を小学校17名、特別支援員を小学校9名配置し、個に応じた支援を充実させていることは評価できる。引き続き良好な学習環境を維持するため市費負担非常勤講師等の現状に即した配置をしていただきたい。 ・部活動指導員（6名）、外部指導者（21名）に適した人材を配置し、教育的な資質向上のため研修会を実施し、部活動の充実を図ったことは評価できる。教育的な視点にたった部活の意義や指導のあり方等の研修は継続していただきたい。 ・児童生徒に質の高い教育を提供するために、教員の指導力向上を目指し教育支援拠点である「学びの森」の指導員が、教職経験2～3年目教員と県・市講師を中心に個別指導形式で授業に関する研修を行ったことは評価できる。 ・教育支援拠点である「学びの森」の指導員が、若手教員と県・市講師を中心に、個別指導形式で実施している研修は授業力向上や学校教育力の向上のために大いに役立っていると思われる。子供たちのために今後も事業を継続していただきたい。 ・新たな取り組みとして現場のニーズに合わせ、それぞれの教員に必要となる力量アップのために、学習評価に関する研修会や学年主任の職務に関する研修会を実施したことは評価できる。

	<ul style="list-style-type: none"> ・G I G Aスクール構想を受けて、一人一台整備された端末の授業の中での効果的な活用について研修し、市内全体で情報を共有したことやG I G Aスクール推進委員会を2回実施し共通理解を図ったことは、I C T教育を進めていく上で評価できる。さらに校内研修の活性化を期待したい。 ・I C T支援員訪問の回数が、小学校216回(131回減)、中学校120回(77回減)と大幅に減少したことは、I T C端末操作の基本スキルを教職員・児童生徒が理解し、向上していることが伺われ評価できる。今後はI C T支援員による支援をヘルプデスクに移行することも評価できる。 ・情報モラル教育(デジタルシチズンシップ教育)で活用可能なウェブ教材やウェブページを市内で情報共有して活用を図り、子供たちの「情報リスクに対応する力」の育成に尽力していることは評価できる。継続して、学校や家庭、関係機関との協力・連携を図りながら情報教育モラル教育の推進に取り組んでいただきたい。 ・I C T教育に関する活動指標は、前年度に比べると若干下がっているが、目標値を大幅に上回っている。これは、I C T機器の普及がかなりの速度で進んでいることの証左であると思われるが、それに伴って、ますます情報モラル教育の重要性も増しているので、適切な対応を望む。
2 I C T教育の推進	

基本目標 III 安全安心で質の高い学校環境づくりを進める

基本 施策	主な取組	具体的な取組	実績	自己点検
				担当課
1 時代に即した学校施設の充実	(1)学校施設の最適化	<ul style="list-style-type: none"> ・学校再編に向け、市民との意見交換を進める。 ・東小と向田小の統合に向け、東小の校舎改修などを実施する。 ・向田小の東中への転用に向けた基本設計を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○東小・向田小学校再編（統合）を実施した。向田小学校が閉校した。（児童の交流事業 10回、閉校記念事業の実施） ○R9年度の富一小・富二小の再編（統合）に向けて、富岡第二小再編に関する保護者等意見交換会を16回実施した。 ○向田小の東中への転用に伴う改修工事で基本設計を行った。 ○東小向田小統合に伴う改修工事を実施した。（本体・放課後児童実・給食室） 	A 教育総務課
	(2)ICT 環境整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT 活用研修、課題別研修、担当者研修等、教職員への研修機会の創出。 ・ICT 支援員の配置等、教職員へのサポート体制を構築する。 ・校務系 PC 環境の改修を行い、教職員の働きやすい環境を構築する。 	<p><学校教育課></p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業者による ICT 支援員の派遣を各校で実施した。その中で各学校の要望に合せ、授業支援や校務支援、教員への研修などをバランス良く実施した。 <p><教育総務課></p> <ul style="list-style-type: none"> ○校務用パソコンの維持管理を実施した。 	A 学校教育課 教育総務課
2 安全な施設整備の推進	(1)安全安心で快適な学校施設	<ul style="list-style-type: none"> ・校内安全点検の実施及び施設・設備の定期点検を実施する。 ・児童生徒が安心、快適な学校生活を送れるよう、施設の維持修繕を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○担当者（教育総務課技師）による日常的、定期的な安全点検を実施した。また、施設や設備の法定点検は毎年行っている。 ○安全、安心に係る工事を優先して実施した。 	A 教育総務課

課題等と今後の取り組みの方向性

<教育総務課>

- 学校再編の計画に掲げるスケジュールに沿って、円滑な再編を実施する。
- ICT 環境整備、校舎等の環境整備は児童生徒が快適な学習環境を保てるよう、今後も継続していく。

活動指標

基本 施策		内 容	計画策定時	R5	R6	目標 (R8)
2	①	学校施設の空気調和設備設置率（特別教室）	10.8%	26.3%	26.3%	50%

2 教育総務課

評価委員の意見

基本施策	評価委員の意見
1 時代に即した学校施設の充実	<ul style="list-style-type: none">・裾野市学校教育施設再編計画にもとづき、向田小学校・東小学校の統合に向け地元への説明、児童の交流事業、閉校記念事業、東小学校の校舎・給食室等の改修が進められ、向田小学校が閉校を迎えた。再編計画にしたがって引き続き保護者や対象学区の市民に丁寧な説明をお願いしたい。・ICT環境整備では、ICT活用研修会、課題別研修会、担当者研修会等、教員への研修機会を創出したことは、教員が主体的にICTに関わることにつながり評価できる。・事業者によるICT支援員の派遣については、各学校の要望に合わせて、授業支援、公務支援、教員への研修等バランスよく実施し、教員へのサポート体制の構築を図ったことは、各校が実態に即して支援選択ができ評価できる。・校務系PCの改修・整備を行い、教職員の働きやすい環境にしたことは働き方改革にもつながり評価できる。

2 安全な施設整備の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育現場による日常的、定期的な校内安全点検、担当者（教育総務課技師）による施設や設備の毎年の法定点検により、児童生徒が安心安全に日々送れたことは評価できる。 ・特定建築物定期調査により報告を受けた建物の老朽化や設備の不具合につき、予算的な制約があると思うが、事故や災害を未然に防ぎ、子供たちの安全を守るために、緊急性の高いものは速やかに対応していただきたい。 ・特別教室の空調設備設置率が 26.3 %である。今日の気象状況からは早急な対応が必要と思われる。児童生徒が健康で安心安全な学校生活が送れるよう設置を推進していただきたい。 ・市内の学校施設は築年数が長く老朽化が進んでいる。教育環境をよりよく改善していくために課題でもあげているが、学校教育施設再編計画に掲げるスケジュールに沿って円滑に進めていただきたい。
--------------	--

基本目標 IV 一人一人の成長を支え生涯学び続ける力を支援する

基本 施策	主な取組	具体的な取組	実績	自己点検
				担当課
1 学 び の 環 境 の 充 実	(1)生涯学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館講座の開催、学習発表機会を創出する。 ・生涯学習教養講座の開催。 ・市民芸術祭、ゆうあいプラザ祭等学習成果発表の機会を提供する。 ・生涯学習まちづくり出前講座を実施する。 	<p><生涯学習課></p> <ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習教養講座として1年間に15講座を開催した。 ○ゆうあいプラザ祭を3月2日に実施し、400名の来場があった。 ○生涯学習まちづくり出前講座は13の実施メニューに対して、延べ54回・1,280名の参加があった。 <p><鈴木図書館></p> <ul style="list-style-type: none"> ○通年講座7講座、夏季講座2講座、特別講座3講座を開講した。 ○受講生の受講成果を発表する作品展示会を開催した。 	A 生涯学習課 鈴木図書館
			<ul style="list-style-type: none"> ○生涯学習情報誌(for you)のウェブサイトによる情報提供を行う。 ○生涯学習情報紙(to you)のウェブサイトによる情報提供を行う。 	A 生涯学習課
2 図 書 館 サ ー ビ ス の 充 実	(1)講座・イベントの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館まつりなどの市民参加型イベントを開催する。 ・一日図書館司書などの児童体験型イベントや、幅広い世代を対象とした各種講座を開催する。 ・読書ボランティアとの協働による読み聞かせ会等を開催する。 ・市他課や市民グループとの連携による講座及び啓発等を実施する。 ・親子が楽しく図書館を利用できるスペースや日を設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○一日図書館司書や図書館まつりなどの市民参加型イベントを計18回開催した。 ○市民グループと連携した共同展示や他機関と連携した講座を実施した。 ○おはなしボランティアによる読み聞かせ会を56回実施し、延べ647人の参加があった。 ○親子ふれあいデー事業「キッズ&ベビータイム」を実施した。 	A 鈴木図書館

	(2) 読書の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・季節や時節に合わせた魅力あるテーマ展示を実施する。 ・図書館ウェブサイトや図書館だより、ブックリスト、市広報紙等による積極的な情報発信をする。 ・相互貸借制度を活用した広範囲なリクエストへの対応や、レファレンス等のサービスを充実する。 ・「学級文庫パック」を通じた幼保小中への読書活動・読書習慣等の育成支援や、市内事業所等を対象にした「文庫パック」を実施する。 ・図書館未利用の市民向けに、積極的な情報発信と、図書館サービスの提供をする。 ・「読みたい」「借りたい」と思うような資料の収集や配架をする。 ・地域情報に沿った資料の収集や展示をする。 	<p>○鈴木図書館ウェブサイトを積極的に更新、図書館だよりも毎月発行し、新刊の紹介やイベント等の情報発信に努めた。また報道提供も積極的に行つた。</p> <p>○リクエストに応えるため、未所蔵資料は相互貸借制度等を活用し、他館からの借用ができないものは新規購入した。</p> <p>○オンラインによる未所蔵書籍のリクエストにも対応した。</p> <p>○「鈴木図書館パック」は、学校等のほか、市内医療機関にも範囲を拡大し、計898冊の貸し出しを行つた。</p> <p>○ヤングアダルトブックリストやアドバイスパンフレット(絵本リスト)を作成し効果的に配布した。</p> <p>○蔵書点検を行い、資料の整理や除籍作業を行つた。</p>	A 鈴木図書館
3 スポーツの推進体制の整備	(1) スポーツの推進	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ推進審議会、スポーツ推進委員会等を開催する。 ・市民が体力や年齢に応じて気軽にスポーツ・レクリエーションができるよう、市スポーツ祭やスポーツ教室を開催する。 ・スポーツ協会加盟団体やスポーツ少年団等の活動を支援する。 ・全国大会等に出場する団体や選手に対し奨励金を支援する。 ・指定管理者と連携し、幅広いニーズに対応した各種スポーツ教室を実施する 	<p>○スポーツ推進審議会(3回)、スポーツ推進委員会(12回)を開催した。</p> <p>○市主催の市スポーツ祭を年8大会計画、実施した。</p> <p>○スポーツ推進委員が各地区で市民スポーツ教室を開催した。</p> <p>○スポーツ協会加盟団体が開催する3種目のスポーツ大会及に対して助成を実施した。</p> <p>○スポーツ選手に対して72件の助成を実施した。</p> <p>○指定管理者が自主事業として、体育施設で各種スポーツ教室を実施した。</p>	A 生涯学習課

	(2) スポーツ施設	<ul style="list-style-type: none"> ・指定管理者と連携し、スポーツ施設の整備の充実を図る。 ・老朽化の進む施設の必要な修繕改修を実施し、施設利用者の安全を確保する。 ・市内小中学校の運動場・体育館を有効活用し、身近なスポーツ施設として開放する学校体育施設開放事業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○指定管理者によるスポーツ施設の管理・運営を行なった。 ○スポーツ施設の修繕を実施した。 ○運動公園陸上競技場会議室空調機を更新した。 ○学校体育施設開放事業を実施した。 	A 生涯学習課
4 文化財や伝統文化活動の保存・活用	(1) 文化財の調査・普及	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の未指定文化財や世界遺産富士山に関する調査を進め、必要に応じて指定を目指す。 ・裾野の文化財展やフォトコンテストを開催し、文化財の価値を伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○未指定文化財に関する調査を実施した。 ○文化財に関する企画展を開催した。(裾野市の文化財展、唯念上人掛軸展、すそのぶんかざいフォトコンテスト2024及び展示) また、出前講座を企画した。 	A 生涯学習課
	(2) 文化財の保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> ・所有者による指定文化財の管理を支援する。 ・富士山世界文化遺産裾野市民協議会と連携し、富士山の日記念事業等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○管理清掃のための委託を実施した。 ○富士山の日記念講演会、富士山芸術展を開催した。 	A 生涯学習課
	(3) 郷土愛の醸成	<ul style="list-style-type: none"> ・「楽しい郷土史だより」を発行し、郷土の歴史を伝える。 ・地域の歴史や文化の理解、価値の再認識を通して郷土を大切にする心を育むため、小中学校への出前授業を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○楽しい郷土史だより 第13号を発行した。 ○学区内出土土器等を紹介する出前授業(東小・富岡第二小・向田小6年生)を実施した。 	A 生涯学習課
5 文化活動の振興	(1) 文化芸術活動	<ul style="list-style-type: none"> ・市民文化センター大ホールの再開に向け実施設計を行う。 ・市民芸術祭、吹奏楽フェスティバル(吹奏楽合同発表会)を開催し、文化芸術に触れ合う機会を提供する。 ・全国大会等へ参加する団体・個人へ奨励金を支出し、活動を支援する。 ・指定管理者と連携し、ホール休館中であっても実施可能な自主事業を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市民芸術祭を開催した。吹奏楽フェスティバルは今年度も会場を多目的ホールへ移し、吹奏楽合同発表会として開催した。 ○奨励金の周知を行い、実績が4件あった。 ○指定管理者の自主事業として地域連携事業1事業、鑑賞型事業1事業、講座事業1事業(17回)が開催された。 	A 生涯学習課

課題等と今後の取り組みの方向性

<生涯学習課>

○学校体育施設の備品等の定期点検を夏と冬に実施し、必要な用品の更新を行うことにより利用者の安全を確保していく。

○働き世代である若年層や中年層は、余暇時間を多様な使い方をしており、従来型の学習に対してニーズが低下している。これらは、インターネットやデジタル技術の普及に伴い、情報へのアクセスが容易になり、知識やスキルを容易に得られることに満足していることが要因と考えられる。働き世代が余暇活動として魅力ある講座等の内容を時間帯も含めて設定する必要がある。

○市民の文化財に対する興味関心を喚起し、文化財の保存や郷土愛の醸成につなげるため、積極的な情報発信や展示を行う。

○貴重な文化財を未来に残していくために、継続的な文化財指定を行い、文化財の滅失を防ぐ。

○文化センター大ホールの早期利用再開に向け、改修工事を行う。

○文化協会活性化のため必要な支援を行うとともに、指定管理者と連携し文化事業の開催・文化活動の場の提供を行う。

<鈴木図書館>

○電子書籍の導入について、引き続き近隣市町や業界動向等の情報収集を行っていく。

活動指標

基本 施策		内 容	計画策定時	R5	R6	目標 (R8)
1	①	この1年間の生涯学習（自分に合った内容を自由に選択し行う学習活動）の実施の有無	— (現状なし)	18.7%	18.0%	50%
	②	生涯学習センター・公民館を拠点とするサークルや教室などの生涯学習活動満足度・重要度	満足度 17.9% 重要度 49.4%	—	—	満足度 23% 重要度 55%
2	①	鈴木図書館の入館者数	125,670人	104,505人	110,036人	130,000人
	②	幼稚園・保育園・小中学校・放課後児童室への「学級文庫パック」利用件数	4件	23件	34件	14件
3	①	週1回以上の運動習慣のある市民の割合	49.7%	53.6%	56.5%	65%
	②	スポーツ関連施設の整備・充実やスポーツツーリズムの推進などのスポーツの振興	— (R1 調査なし)	満足度 8.7% 重要度 17.1%	満足度 9.2% 重要度 16.1%	満足度 24% 重要度 44%
4	①	市ウェブサイト閲覧件数（歴史・文化）	19,941件	5,120件	4,028件	22,000件
	②	地域の歴史や文化への興味がある児童生徒の割合	41.8%	62.5%	65.2%	70%
5	①	市民芸術祭参加者数	1,659人	1,062人	1,198人	1,700人

1、3、4①、5 生涯学習課／2 鈴木図書館／4② 学校教育課

評価委員の意見

基本施策	評価委員の意見
1 学びの環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教養講座受講生の声を反映して、昨年度は新規講座開設に向け調整を行い、本年度は15講座開催した。受講生の声に耳を傾ける前向きな姿勢は、受講の励みとなり積極的な講座参加へつながり評価できる。 生涯学習教養講座として1年間に15講座を開催したこと、ゆうあいプラザ祭を3月2日に実施し400名の来場があったことは、毎年のことではあるが着実に事業を進めていることとして評価できる。その中で、マンネリにならないように、事業をこなすことで良しとならないように、毎年心を新たに取り組んでほしい。 生涯学習まちづくり出前講座では、市民のリクエストに応じて市職員が出向き、行政の取り組み状況の説明や、仕事上の知識を生かした講座を行っている。実績として13の実施メニューに対して、延べ54回・1,280名の参加があり評価できる。健康に関する講座が多かったようだが、こうした学びの機会を市民に広く周知し、行政へのリクエストが増えていくことを期待している。 鈴木図書館では、通年講座7講座、夏季講座2講座、特別講座3講座を開講し、講座生の受講成果を発表する作品展示会を開催したことは、受講生の学びへの意欲を高める機会となり評価できる。本の貸し出しだけではない図書館の業務を考える上で、非常に大切な取り組みであり、今後も積極的に取り組んでいただきたい。 生涯学習情報誌(for you)のウェブサイトによる情報提供および生涯学習情報紙(to you)のウェブサイトによる情報提供を行ったことは、例年のことではあるが、市民への生涯学習に関する情報提供として評価できる。だが、こうした情報に接することのできない市民がいることも考慮して、より良い情報提供の方法を常に検討してほしい。 東西公民館講座合同展示会が継続して開催されているが、受講生自身の励みになるとともに、新たな受講申し込みのきっかけの場ともなるもので評価できる。今後とも継続してもらいたい。 新たな課題として、働き世代である若年層や中年層は、余暇時間の多様な使い方をしており、従来型の学習に対してニーズが低下しているので、働き世代が余暇活動として魅力ある講座等の内容を時間帯も含めて設定する必要があるとの認識が示されたことは、新しいスタイルの講座の出現が期待され、大いに評価できる。

2 図書館サービスの充実	<ul style="list-style-type: none"> ・おはなし会・読み聞かせ、市民参加型イベント、テーマ展示と幼児から大人を対象にしたもので様々な切り口から多彩な事業に継続的に取り組んでおり評価できる。 ・鈴木図書館ウェブサイトを積極的に更新し、図書館だよりを毎月発行、新刊図書の紹介やイベント等の情報発信、報道への積極的な情報提供等は市民に情報が届き、図書館利用へとつながり評価できる。 ・リクエストに応えるために、未所蔵資料は相互貸借制度を活用し、他館からの借用ができないものは新規購入をしたり、オンラインによる未所蔵書籍のリクエストができるようにしたりと、市民の立場に立って工夫していることは評価できる。 ・「鈴木図書館パック」の対象を市内医療機関にも拡大し、より広く身近に本に親しみ、鈴木図書館を利用するきっかけとなるよう対象事業所の拡大を検討してはどうか。 ・蔵書点検の資料の整理や除籍作業は地道な作業であるが、蔵書の確実な把握につながり市民のニーズをつかむ重要な作業であるので評価できる。 ・蔵書点検を行い、資料の整理や除籍作業を行っていることは、鈴木図書館の適正規模を維持していく上で重要な作業であり敬意を表したい。 ・「読みたい」「借りたい」と思うような資料の収集や配架、地域事情に沿った資料の収集や展示は、市民側にたった視点で工夫しており評価できる。 ・図書館ウェブサイトはトップページにある「知識の宝さがしをしたのしもう」のタイトルどおり、本に関する様々な世界への入り口になっていて評価できる。 ・親子ふれあいデー事業「キッズ&ベビータイム」は、毎月第2水曜日の午前9時から12時まで、1階児童コーナーで実施しており、小さいお子さん連れでも気兼ねなく図書館を利用していただくため、お子さんが大きな声をあげたり騒いでもいい時間帯として館内の利用者にご理解いただきながら実施しているということは、図書館の「居場所」としての役割も意識した取り組みとして、大いに評価したい。
--------------	---

3 スポーツの推進体制の整備	<ul style="list-style-type: none"> 生涯スポーツ推進事業としてスポーツ推進委員の企画・運営により市内5地区で市民スポーツ教室が通年開催された。また市スポーツ祭として8大会が継続実施され、多くの市民が参加したことは評価できる。 スポーツ協会加盟団体が開催する3種目のスポーツ大会に対して助成し活動を支援したことは評価できる。 スポーツ選手に対する助成が、前年度の46件から72件に増加（出場者も62人から90人に増加）していることは喜ばしい。 指定管理者が自主事業として、体育施設で市民の幅広いニーズに対応した各種スポーツ教室を実施したことは評価できる。 運動公園陸上競技場会議室空調機の更新や老朽化の進むスポーツ施設の修繕をし、施設利用者の安全確保に努めていることは評価できる。 運動公園野球場外野防護マット補修工事、同野球場人工芝張替修繕工事等利用者の安全確保に努めていることは評価できる。
4 文化財や伝統文化活動の保存・活用	<ul style="list-style-type: none"> 市内の未指定文化財や世界遺産富士山に関する調査を進め、必要に応じて新規指定を目指すことは後世への遺産となる。また、所有者による指定文化財管理への支援を実施していることは評価できる。文化財指定の調査は継続して取り組み、貴重な文化財の滅失を防いでいただきたい。 地域の歴史や文化の理解、価値の再認識を通して郷土を大切にする心を育むためにも伝統文化の継承、文化財の保存は大切なことである。 未指定文化財に関する調査はたいへん重要なことなので、今後とも積極的に調査を継続してほしい。 裾野市の文化財展、唯念上人掛軸展、すそのぶんかざいフォトコンテスト2024などの文化財に関する企画展の開催や、出前講座を企画したことなど、文化財と市民をつなぐ事業の展開は大いに評価できる。 学区内出土土器等を紹介する出前授業(東小・富岡第二小、向田小6年生)、地区歴史出前講座(茶畑浅間神社、大畑区)の実施は、地域の歴史や文化を理解し価値を再認識でき、郷土への愛着も育まれる機会となり評価できる。他の小中学校、各地区でも出前講座を推進していただきたい。 市内の史跡・文化財・伝統文化を知ることができる「楽しい郷土史だより13号」の発行は評価できる。厳しい予算ではあるが、市民に情報提供をするよい機会となるので、デジタル化したもの、散策しながら手軽に見られるもの、授業で活用

	<p>できる教材用のもの等工夫していただけると活用の拡大が期待される。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・富士山世界遺産センター、御殿場市とともに世界文化遺産「富士山」を構成する登山道のひとつ「須山口・御殿場口登山道」について、共同調査・研究を実施した成果として「富士山巡礼路調査報告書 須山口登山道・御殿場口登山道」が刊行された。須山口登山道の歴史的価値を再認識できる。 ・富士山の日記念講演会、富士山芸術展など、裾野市の誇りでもある富士山に関する事業の開催は評価できる。
5 文化活動の振興	<ul style="list-style-type: none"> ・吹奏楽フェスティバルは、会場を多目的ホールへ移動し、吹奏楽合同発表会として開催した。演奏者は練習の成果を発表する場となり、聴衆者は文化芸術にふれる機会となり評価できる。スプリンクラー事故から大ホールが使用できなかったため、文化芸術等がより効果的な環境で発表できるよう、大ホール利用再開に向けて早急に対応を図ってほしい。 ・全国大会等へ参加する団体・個人に奨励金が出ることや活動を支援することなどの周知を行った結果、東海大会（東日本大会を等を含む）1件、全国大会3件と全部で4件の実績があったことは評価できる。 ・大ホール休館中というハンデの中、指定管理者の自主事業として地域連携事業1事業、鑑賞型事業1事業、講座事業1事業（17回）が開催されたことは評価できる。 ・スプリンクラー事故から使用できなかった市民文化センター大ホールの改修工事実施設計業務が完了し、本年5月には工事施工業者も決定した。安全に工事が進み、工期内に工事が完了し、市民の文化芸術活動の発表、鑑賞の場として大ホールが無事再開されることを願う。

基本目標 V 学校・地域・家庭の連携により教育力を向上させる

基本 施策	主な取組	具体的な取組	実績	自己点検
				担当課
1 学校を核とした地域づくり	(1)地域と学校の連携	・スクールコーディネーター、コミュニティスクールディレクターを活用し、各学校や地域の特色を生かした地域学校協働活動やコミュニティスクールを推進する。	○スクールコーディネーター、CSディレクターがつなぎ役となり、地域のボランティアが学校の教育活動を支援した。 ○中学校を中心に、子供たちが地域の活動に関わる事例もあった。	A 学校教育課
2 地域教育の充実	(1)地域の教育力向上	・社会教育に関する各種団体の情報交換や連携を図れるよう、市民活動の集いを開催する。 ・社会教育関係団体の活動のPR等をし、活動を支援する。 ・生涯学習人材登録制度を推進し、社会で活躍できる機会を作る。	○社会教育委員会主催で市民活動の集いを実施し、各種団体が情報交換を図った。 ○西地区婦人会等関連活動を支援した。 ○身近な先生人材登録制度を継続実施した。「for you」に登録者リストを掲載するほか、「to you」で活用を呼びかけた。	A 生涯学習課
	(2)青少年育成の推進	・青少年育成関係団体の活動のPR等をし、活動を支援する。 ・青少年育成関係団体が主催する体験活動を支援する。 ・青少年の健全育成の環境を整えるため、声掛け運動（あいさつ運動）、定期的な街頭補導等を行う。	○青少年育成団体への補助金や情報提供などを通じて活動を支援した。 ○地域の青少年声掛け運動として、駅前や大型店舗での該当キャンペーンを実施した。 ○地区ごとに補導員による街頭補導活動を実施した。	A 生涯学習課
3 家庭教育の充実	(1)家庭教育の向上	・家庭教育学級等の保護者が集まる機会に、家庭教育支援員や人づくり推進員の活用を推進し、親としての知識を高めるとともに、子育てへの不安を解消できるよう支援する。	○市PTAが家庭教育学級の講演会を3回開催した。 ○家庭教育支援員の活用推進は推進されていない。	B 生涯学習課
	(2)家庭読書の推進	・ファーストブック事業を実施する。 ・おはなし会等各種読み聞かせイベントを実施する。 ・子育て講座を開催する。	○ファーストブックは、月4回実施し、実施日以外でも参加できるようにした。 ○おはなし会や読み聞かせ等はおはなしボランティアと連携しながら実施した。	A 鈴木図書館

4 放課後の居場所づくりの推進	(1) 放課後児童室	<ul style="list-style-type: none"> ・入室希望者の入室調整を行う。 ・運営受託者と連携し、効率的な運営を図る。 ・夏休み等の長期休業中のみの受け入れも実施する。 	<p>○希望者は全員入室できるよう調整を行った。</p> <p>○入室申込をオンライン化した。</p> <p>○委託事業者と連携しスムーズな運営を行えた。</p>	A 教育総務課
	(2) 放課後子ども教室	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民の参画による放課後子ども教室放課後学習支援事業「すそのん寺子屋」を実施する。 ・委託事業により、学校以外の場所で学習支援以外の体験や、中学生向け学習支援を実施する。 	<p>○地域住民の参画による放課後子ども教室放課後学習支援事業「すそのん寺子屋」を実施した。</p> <p>○放課後子ども教室の充実に向け、委託による事業を実施した。</p>	A 生涯学習課

課題等と今後の取り組みの方向性

<教育総務課>

- 放課後児童室の入室について、西小学校で待機児童が発生している為、入室希望者が全員入室できるよう児童室を新たに開室する必要がある。

<生涯学習課>

- 学校、地域、家庭間の情報共有が不十分であることが多く、連携がスムーズに進まないことがある。また、核家族化や共働き世帯の増加により、家庭での教育が難しくなっているケースが増えている。
- 今後の取り組みとしては、子育てに関する学習機会を提供し、家庭教育を支援する取り組みを進める。また 家庭教育学級等では、若い世代が交流でき、家庭教育につながるような講座を検討する。

<鈴木図書館>

- ファーストブックの参加率が横ばいであるが、親子での読書活動の重要性を今後も啓発していく。
- おはなしボランティアの会員が減少しつつあるため、会員の確保が課題。

活動指標

基本 施策		内 容	計画策定時	R5	R6	目標 (R8)
1	①	学校運営協議会を導入した学校数	0 校	14 校	14 校	14 校
2	①	身近な人材登録制度「身近な先生」の登録者数	73 人	48 人	48 人	78 人
	②	自ら地域の人にあいさつをする児童生徒の割合	91.5%	90.4%	-%	100%
3	①	家庭教育支援員等による家庭教育講座参加者数	254 人	15 人	13 人	454 人
	②	おはなし会のべ参加人数	1,037 人	1,035 人	847 人	1,300 人
4	①	放課後児童室の充足率（入室者/希望者）	100%	100%	100%	100%

1、2② 学校教育課／2①、3① 生涯学習課／3② 鈴木図書館／4 教育総務課

評価委員の意見

基本施策	評価委員の意見
1 学校を核とした地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちの成長を地域全体で支え、学校を核としながら地域全体の活性化を図る取り組みがコミュニティスクールディレクター、スクールコーディネーターが地域とのつなぎ役となり進められている。子供たちは様々な人と関わることで学びが豊かになり、関わる大人同士がつながり地域ぐるみで子供たちを育てる体制ができてきている。今後は各学校の学校運営協議会、地域学校協働本部の取り組み状況の情報交換を密にしながら、地域とともににある楽しい学校づくりを進めていただきたい。 ・スクールコーディネーター、CSディレクターがつなぎ役となり、地域のボランティアが学校の教育活動を支援している事例はますます増えており、大いに評価できる。しかし、ボランティアのほとんどは保護者であり、コミュニティスクールの地域社会への浸透はまだ足りていないように思われる所以、一層の努力をお願いしたい。 ・中学校を中心に、子供たちが地域の活動に関わる事例があったことは嬉しいことで評価できる。地域のお祭りに企画段階から参加して盛り上げていること、美術部の活動として側溝の蓋に絵を描いたり、市役所の黒板アートを作成したりしていることなど、地域社会とのつながりを深めていることを評価したい。

2 地域教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育に関する各種団体の情報交換や連携を図れるよう、社会教育委員会主催の市民活動の集いを実施したこと、成人教育関係団体の活動支援として西地区婦人会等関連活動を支援したことは評価できる。 ・「身近な先生人材登録制度」を継続し、登録者が減少したものの生涯学習情報紙「for you」に登録者リストを掲載したり、生涯学習情報紙「to you」で活用を呼び掛けたりしたことは評価できる。今後も継続して身近な先生登録への呼びかけをお願いしたい。 ・青少年健全育成のために、青少年育成推進委員や補導センター、青少年育成連絡関係団体等が連携して、地域の青少年声掛け運動の実施、地域ごとに補導員による街頭補導の実施等は、青少年を地域で守り育てることにつながり取り組みへの努力が伺われる。地域状況や個人の価値観も多様化する中で、各種団体との連携のあり方や活動の吟味等の見直しを図り、後退現象への改善時期にきているようにも思われる。 ・地域の青少年声掛け運動として、駅前や大型店舗での該当キャンペーンを実施したり、地区ごとに補導員による街頭補導活動を実施したことは、青少年健全育成の上で重要なことであり、評価できる。 ・青少年育成団体への補助金や情報提供などを通じて活動を支援したとあるが、青少年育成事業の補助金については2分の1補助で、自主財源を持たない団体にとって非常に使いにくいものと感じる。 ・青少年育成団体に対して、補助金や情報提供などを通じて活動を支援していることは、評価できる。
-----------	---

3 家庭教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育学級は、各校簡略化が進んでおり家庭学級支援員や人づくり推進員の活動が機能していないことであった。こうした中で、市PTAが家庭教育学級の講演会を3回開催したことは評価できる。課題として、今後の取り組みについて子育てに関する学習会を提供し、家庭教育を支援する取り組みを進めること、家庭教育学級では若い世代が交流でき家庭教育につながるような講座を検討することをあげている。価値観が多様化し家庭のあり方も変化している。家庭教育は子供たちが人として成長していく重要な基盤となるので検討事項の具現化を期待している。 ・家庭教育支援員が活用されていない原因として、共働き家庭やひとり親家庭の増加により、保護者が参加する時間的余裕がないことや、若い世代が家庭教育を考える意識は低く、集団で話し合うような手法は敬遠されがちであること、また、家庭の悩みや課題に関する情報を扱うため、家庭内の問題や個人情報を取り扱うことも考えられることなどがあるようだが、それらを踏まえて家庭教育指導員の制度、仕組みを考え直しても良いのではないか。 ・ファーストブックは横ばいであるが、月4回実施し、実施日以外でも参加できるようにしたことは評価できる。親子での読書活動の大切さを少しでも啓発していくために、開催方法や開催場所等を工夫し、より多くの子供や親子に参加してもらえるような取り組みを期待している。 ・おはなし会・読み聞かせの会では、おはなしボランティアの会員が減少しつつあるが、参加人数が1,037名（91名増）と伸びていることは評価できる。おはなし会や読み聞かせの会のよさを積極的に情報発信するなどボランティア会員確保に努めていただきたい。 ・おはなし会や読み聞かせ等を、おはなしボランティアと連携しながら実施したことは、現場のニーズに即した開催を心がけているということで、評価できる。 ・鈴木図書館で実施している子育て講座「絵本とおしゃべりのへや」では静岡県家庭教育支援員の方々が絵本等の読み聞かせとともに、子育てについての相談にも応じている。保護者同士も情報交換を行いながら、自然とグループになっている。小中学校においては家庭教育支援員による家庭教育講座への参加者が非常に少ないようだが、児童を核としたこのような取組を進めてみてはどうか。
-----------	---

4 放課後の 居場所づくり の推進	<ul style="list-style-type: none"> 放課後児童教室は児童数は減少しているが、入室希望者は増加傾向にある。児童が全員入室できるように調整し充足率が100%である。児童が安心する生活の場となり、保護者の働き方支援にもつながるので評価できる。課題で、西小学校で待機児童が発生しているため、入室希望者が全員入室できるよう新たに児童室を調整する必要性を押さえていることは心強い。今後も委託事業者と連携をしてスムーズな運営を継続していただきたい。 放課後児童室入室申し込みをオンライン化にしたことは、保護者が迅速に申し込みができ評価できる。 放課後児童室の利用について、長期休業中のみ利用したいという保護者からの要望があったため、令和6年度から、長期休業中（夏休・冬休・春休）のみの利用も受け付けを開始したことは、利用者のニーズに沿った対応で、大いに評価できる。 放課後子ども教室の充実に向け、委託事業により学校以外の場所で学習支援以外の体験を実施したり、地域の方による「ユニーの会」に委託して、富岡地区コミュニティセンターで中学生向けの英語学習支援が実施されたりしていることは、新しい形態の取り組みとして評価できる。 放課後子ども教室事業の参加児童生徒が増加し、学習支援員登録者も増加している。地域と学校の連携による学習支援として評価できる。 放課後子ども教室放課後学習支援事業「すそのん寺子屋」を、地域住民の参画によって実施したことは、評価できる。
-------------------------	---